

2021.10.29

今を生きる子どもたちへ共 感と希望を

アスポート学習支援～ヤングケアラーの実態と支援～

彩の国子ども・若者支援ネットワーク 土屋匠宇三

子どもの貧困率13.5% 校門の外で私たちが取り組んでいること

(1) 「生活困窮者自立支援法」に基づく生活困窮世帯への学習生活支援事業

(2) 埼玉県及び各市からの「委託事業」で、費用は全額、国と埼玉県及び各市

(3) 事業内容

- ① 学習教室の運営（147教室、小・中・高校生1419名、ほぼ、マンツーマン指導、無料、大学生ボランティア・元教員・社会人600名ほど）
- ② 家庭訪問
- ③ 学習教室での食事提供、体験、イベント（23教室、子ども食堂の方々の協力で毎週500食程度）
- ④ 教育委員会、学校、SSW,民生委員、大学、農協・フードバンク・企業（食材提供など）、社会福祉協議会などとの連携
- ⑤ 支援対象は生活保護世帯、ひとり親世帯、就学援助世帯など

学習教室で明らかになったこと

- 極端な低学力
 - 九九、分数ができない
 - 小学校4年生の問題 平均点38点
 - 定期テストで10点未満
- 不登校率 20% 350人中、71人
- 貧困と学力の関係
 - 毎日の営みー登校準備ーの不十分さの積み重ね
 - 質問できないー幼児期の「応答的關係」の経験の不足
 - 健康で文化的とは言えない生活

家庭訪問を通して見えてきたこと

保護者

- * ダブルワークで時間的余裕がない
- * 外国籍
 - 日本語を理解することができない、高校入試について知らない
- * 精神疾患(うつ病・統合失調症等)・病気・けが
 - 就業困難
- * DV被害経験・離婚・転居
 - ひとり親家庭(大半が**母子家庭**)、地域から**孤立**

保護者は問題や悩みを相談できる人がいない



子ども

- * 自分の部屋・机がない、家事・育児お手伝いが忙しい(家で勉強する環境がない)
- * **不登校**(年間30日以上欠席)
 - **6人に1人**(全中学生平均の約6倍)
- * **低学力**
 - 約80~90%
 - 中学1年生の内容または小学校の内容から振り返る必要
- * 両親の不仲や離婚で勉強に集中しにくい

頼れる大人がいない子ども



親の障害、疾病

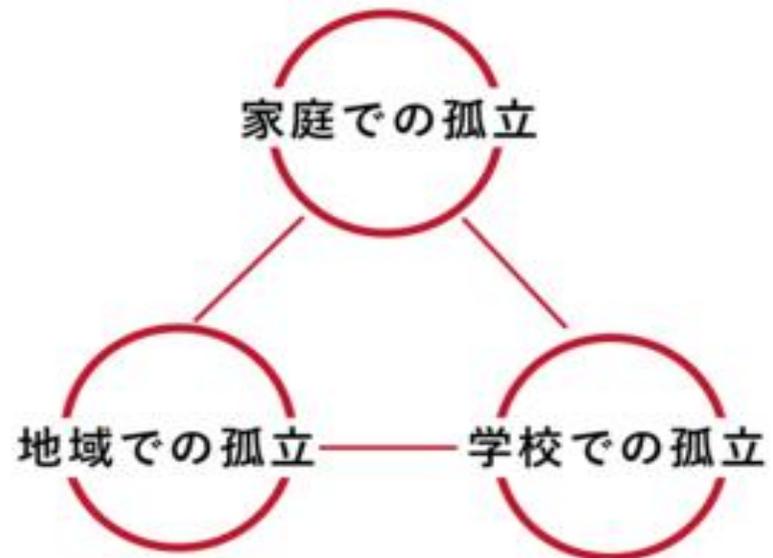
- 両親と中学3年生の娘
- 父は高齢、母は発達障害とボーダーで中学卒
- 周囲に合わせることができず小学校から相談室登校
 - クラスの子たちは友達ごっこに見える
 - 生きるだけで精いっぱい
- 受験当日に439円
- 受験は来年にする
- 高校では友達ができてとても楽しい

貧困＝個別に複合的な理由

- 親の障害、疾病
 - アルコール依存症
 - 子の障害、疾病
 - 外国にルーツを持つ
 - 低賃金、重労働
 - DV、ネグレクト
 - 関係性の喪失
 - 幼少期の父母のゴタゴタ
-
- いじめ、不登校
 - 低学力

3つの孤立

- 知らないことが孤立を生み出す＝社会的排除



学習支援・生活支援で「変化・成長する」子どもたち

- 1 自分を大切にしてくれることの実感—明日へのささやかな希望
2時間となりにおいてくれること
- 2 わからないことがわかる→世界が広がる「気持ちよさ」→学ぶ意欲
頑張れる自分の発見→自分への誇り
わからないことをわからないと言える
- 3 主観的な幸福感—自分が一人の人間として認められ、公平に接してもらえたこと、社会や身近な大人たちへの信頼感が生まれたこと
- 4 子どもの成長・発達は「固有」の時間がある
 - 今は変化がみえない子でも「地下水脈」に、必ずどこかで現れる
 - 具体的「成果」をすぐ求めない、信頼して待つてあげる大人の存在

『学習教室に通って』

名前：

僕は最初この学習教室に行くのはイヤでした。
しかなイト達と話すのがにがしかったのでやっていた
のですがみんな優しく教えてくれたのでうまして
この教室にきてみてよかったです。
疑問しをけこうやと数学も少しできると
なりました。

この教室のおかげで勉強に私の少しだけ
興味もちました。

子どもの自殺

- 自殺の要因をみると、「家庭の問題」が41人、「親などの叱責」が30人、「進路の悩み」が28人、「いじめ」が9人などとなっている。最も多かったのは「不明」で、全体の6割近くに上った。（文部科学省「問題行動・不登校調査」

ヤングケアラー

- 学習教室アンケート 717名(速報)
- 家族のため通訳をしたことがある 106名(14.8%)
- 家族の世話や看病 82名(11.4%)
- 食事・掃除・洗濯 62名(8.6%)
- 朝食を食べないことがある 253名 35.2%(うち全く食べない7.3%)

親も含めた支援

- 虐待を未然に防ぐ
 - 具体的なサポートとともに「一人ではない」というメッセージ
- ヤングケアラー
 - 子どもの気持ちを“家まで行って聞く”
 - 五感で感じる
- ジュニアアスポート
 - 送迎、登校準備、食事、体験、宿題
 - 親の生活の一部をまるごと補助

「子どもの見守り強化事業」とは

新型コロナウイルス感染症の影響による長期間にわたる外出自粛によって、児童虐待等が増加することへの懸念に対処するため、「子どもの見守り強化アクションプラン」（令和2年4月27日発0427第3号厚生労働省子ども家庭局長通知）の取組を一層推進することを目的に制定。



訪問時に提供する食品等を持っていきます

事業概要

◆目的

要対協の支援対象児童等として登録されている子ども等の居宅を訪問し、状況の把握や食材の提供を通じた見守り体制の強化を図る。

◆対象者

三郷市要対協に登録されている支援対象児童
(要保護児童、要支援児童、特定妊婦)

◆内容

家庭訪問（月1回程度）、対象児童等の様子や家庭状況の確認、生活支援、学習支援、不登校支援、子どもの健全育成に関すること、食材の提供

子どもとの面談を実現する工夫（1）

様々な企業からのご寄付を活用



お菓子や主食、副食も提供

サンタクロースの包装で
クリスマス演出



子どもとの面談を実現する工夫（2）

子どもはぬいぐるみが大好き



ドキドキお宝箱



子どもとの面談を実現する工夫 (3)

カゴの装飾(お楽しみボックス)



季節・流行にあわせて



支援事例・効果(子ども編)

病院や公園への同行支援

定期検診を受診していない、予防接種を受けていない、といった保護者に対し、受診時期を一緒に確認していくことで、子どもの成長をサポートすることができます。また、外出が負担な場合は一緒に公園へ散歩に出かけるなどの同行支援ができます。



必要に応じた学習支援

子ども本人や保護者から要望があれば訪問先での学習支援も行います。この学習支援を通じて学力を高めることと併せて、学習支援により支援員と子どもとの信頼関係を築くことで、子どもからのS O Sを引き出す手段にも繋がります。



保育所申請書作成サポート

保育所入所のための申請書作成は、知的障害を持つ保護者や外国籍の保護者であっても、記載内容の確認は記載方法をサポートすることができ、子どもが保育所に入所することで日々の子どもの“所属”ができることで、子どもの変化をいち早く確認することができるようになります。



支援事例・効果(保護者編)

病院への同行支援

保護者が定期的な通院をしており、育児との両立が大変な場合は、保護者の通院のための同行も行います。保護者自身が健康であることは、保護者だけではなく子どもにとっても大切なことです。



転居に関する相談サポート

家賃を抑えるために転居したくても、保護者が知的障害をもっていたり学籍である場合は、不動産会社との交渉などが滞る場合があります。このような際に支援員が同行するなど、必要な手続きをサポートすることができます。

養育相談・料理作り

子どもの発達段階に合わせた養育が行われていない場合や、保護者自身が養育に悩んでいる場合に、悩みを聞いたり、子育てのアドバイスをするなど、保護者の育児ストレスを軽減することができます。簡単な料理レシピを紹介することも、保護者のストレス軽減に役立ちます。



支援事例・効果(世帯編)

食材や日用品の提供

保護者が物品の提供に喜んでくれることで、次回の面談日設定がスムーズになり、保護者と子どもの様子を定期的に確認することができるようになる。特にレトルト食品など調理に手間のかからない食材は非常に重宝されます。



関係各所との連絡調整

CWやPHNとの情報共有の他、子ども食堂やフードパントリー、食材や物品を提供してくれる企業等との連携のための連絡調整を行います。この地域との連携の土づくりが、対象世帯が地域と繋がっていくための素地となります。

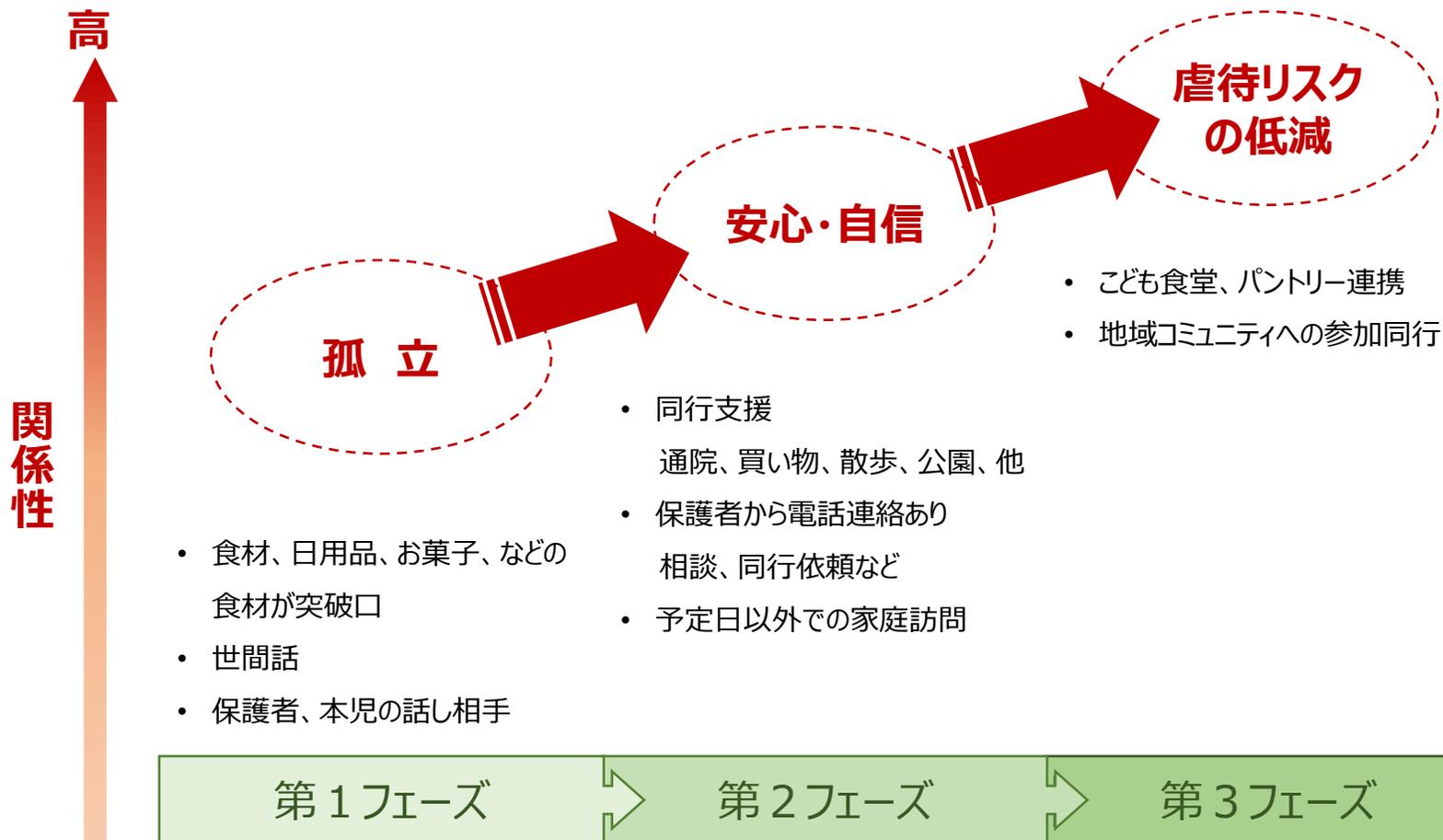
LRS (社会資源に繋ぐ支援)

ローカル・リレーションシップ・サポート

Local Relationship Supportの略で、彩の国子ども・若者支援ネットワークの強みである家庭訪問支援(アウトリーチ)により、対象世帯と社会資源(子ども食堂やフードパントリー等)とを繋ぎ、対象世帯が自らの力で生活力・養育力を高めることをサポートします。



関係構築から次のフェーズへ



Local Relationship Support (社会資源に繋ぐ支援)

月2回の情報共有



子どもたちの願いー寄り添うとは

- 当たり前を押し付けない
 - 反射的に出る思いや感情をいったん置いておく
 - 心のチャンネルを相手に合わせる
- 可能性に目を向ける
 - 問題ばかりではなく、できているところに目を向ける
- ただ聴くだけの重さと難しさ
 - 最後まで話を聞いてほしい、わかってほしい、共感してほしい、気づいてほしい
 - 自分で考えたい、決めたい、地に足を付けたい
 - 大人の「話」「説教」を聞きたいという人はあまりいない
- 子どもの成長・発達には「固有」の時間がある
 - 現状への「不満」「苛立ち」「問題行動」を変化の芽生えとできるかどうか
 - 具体的「成果」が現れない、中途半端さに耐える大人の存在